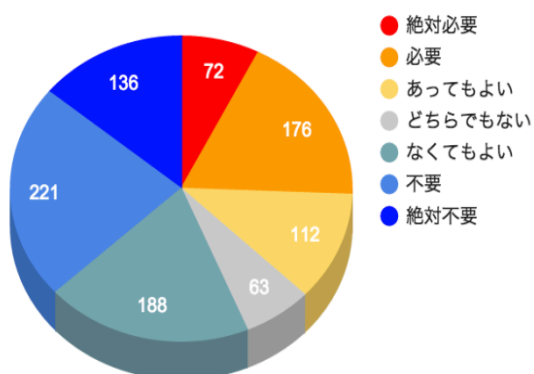




PTAの在り方を考えてみませんか？

PTAは必要ですか？ 不要ですか？



これは、朝日新聞の紙面と連動した「PTAは必要ですか？ 不要ですか？」というアンケートの結果です。1000人ぐらいの回答ですが、「なくてもよい」という考えが半数以上を締め、PTAが抱えている課題が浮き彫りになっているように感じます。また、改善してほしい点としては「役員や係の決め方」「全員加入が当たり前」「活動内容のマンネリ化・簡素化」「男性が参加しにくい」等が挙げられています。

さて、わが富里高校はどうなのでしょう・・・？私の場合、地区ごとの理事を決める日に、偶然出席していました。地区ごとにノルマの人数があり、担当の理事から「決

まらないと帰れませんよ。」と言われたことを覚えています。仕事場に戻らなければいけなかった私は、黙って約30分待ちました（笑）が、誰一人やる人が決まらず、しびれを切らし、「私がやります。」と行って、職場に戻りました。

その後、第1回理事会でPTA会長と総務委員長から「総務副委員長」をお願いされ、バザーの後片付けの祭に副会長を打診され、昨年度副会長・・・そして、本年度会長を務めさせていただいています。

私自身、子どもが3人おりますが、小・中学校のPTA活動にはほとんど参加することはありませんでした。最後にPTAとして少しでも生徒やPTAの皆様のお役に立てればと思い、引き受けることにしました。誰も知らない心細い状況でPTA活動が始まりましたが、理事の方から声をかけていただき、安心して活動することができました。（といっても、ほとんどバザーの前後しか関わっていませんが・・・）しかし、いくつかの課題もわかりました。その中で一番の課題が役員選出です。すんなり理事を引き受けてくださる方、仕方なく引き受けてくださる方、引き受けたけれどほとんど理事会等に参加されない方・・・その結果、真面目に活動している理事の方が富里高校のPTA活動を支えているというのが現状のように感じます。

PTAは任意加入（ボランティア活動）であり、本来強制的な組織ではありません。しかし、“義務化”されていると感じている保護者が多く、任意加入が形骸化する中で保護者たちの頭を悩ませているのが、PTA役員会選出の問題なのです。PTAは組織内部が細分化されていることが多く、保護者をはじめとした会員から派生して、クラスや学年を取りまとめる学年・学級委員、総務委員会、広報委員会、校外指導委員会などの組織が作られているという形が一般的になっています。当然、役員になるとPTA活動に拘束される時間も増えてしまいます。また、その委員会ごとにやる事が決まっています。活動がノルマ化されているようにも感じてしまいます。



男女共同参画社会という言葉をご存知ですか、女性の社会進出が促進される今、家庭の在り方も変化してきています。PTAの在り方も見直すときがきたのではないのでしょうか。これは、私個人の考えですが、運営に携わる時間はなくても、「自分にできることがあれば、子どものためにやってみようかな」

というゆるいモチベーションがボランティアとしてのPTAには重要なのではないのでしょうか。「やらなければいけない」から「やってみようかな」という意識改革が必要な気がします。

9月19日(土)に開催される「かざぎの祭」では、PTA活動の一環としてバザーを行います。今年も理事が分担して運営していますが、例えば全会員に協力を呼びかけるような形に変えていくとか、学年PTAの在り方をみんなで考えていくとか……。手始めに、自由に判断できるものと、やらなければいけないことを区別し(PTA活動と分けて考える)、参加日や期間、内容を理解して自分で選べる体制にできれば……。などと考えています。こんなことを話し合う機会も設定したいと思っています。



昨年のジャガバター販売の様子

私が感じたPTA活動のメリットは、①人脈が広がる②先生方と親しくなれる③学校教育に少しは参画できる④子育て・子どもの教育の幅が広がる⑤視野が広がる……。様々ありますが、残りの期間を楽しみながら、少しでも地域・家庭・学校・生徒の役に立てればと思っております。今後ともご協力をお願いします。

子育てを考えるコーナー ～子どもが大きくなっても、親の役割は……。～

……詩人で童話作家でもある宮沢賢治の「雨ニモマケズ」をパロディー化した「雨ニモアテズ」である▼「雨ニモアテズ 風ニモアテズ 雪ニモ 夏ノ暑サニモアテズ ブヨブヨノ体ニタクサン着コミ 意欲モナク 体力モナク イツモブツブツ 不満ヲイッテイル ▼毎日 塾ニ追ワレ テレビニ吸イツイテ遊バズ 朝カラ アクビヲシ 集会ガアレバ 貧血ヲ起コシ アラユルコトヲ 自分ノタメダケ考エテカエリミズ 作業ハグズグズ 注意散漫スグニアキ ソシテスグ忘レ リッパナ家ノ 自分ノ部屋ニ閉ジコモッテイテ ▼東ニ病人アレバ 医者ガ悪イトイイ 西ニツカレタ母アレバ 養老院ニ行ケトイイ 南ニ死ニソウナ人アレバ 寿命ダトイイ 北ニケンカヤソショウガアレバ ナガメテカカワラズ ヒデリノトキハ 冷房ヲツケ ミンナニ勉強勉強トイワレ 叱ラレモセズ コワイモノモシラズ▼コンナ現代ッ子ニダレガシタ」。……

(中日新聞コラム「中日春秋」2000.12/12より)

上記のような昔の新聞の切り抜きコラムがありました。現代社会の見事な風刺です。本物の「雨ニモマケズ」を読み直すと、世紀をこえた今もいろいろと考えさせられます。「これからの世の中が、現代っ子にとって、常に素敵な世界であるために大人は……。?!」を考えるを得ません

子どもはみな個性豊かです。自分で何かを創り出し、自分でものを考える力を持っています。親や教師の真の喜びは、その子の個性を伸ばし、生き生きとした毎日を送ることができるように見守ることではないのでしょうか。

子どもが大きくなっても親の役割は変わらないと思います。子どもは日々大人から学んでいます。そして大人になったとき、それを人生の糧として生きていくのではないのでしょうか。

これからの生活の中で子どもたちの可能性を信じ、個性を伸ばしていけるような……。そんな「学校」「家庭」「地域」でありたいものです。